

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす1F大地		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	令和3年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0192500015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0192500015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎ 日本で一番美しい村の一つである赤井川村で、四季折々の自然風景を眺め、心穏やかに過ごして頂ける。
◎ リビングからの眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。
◎ お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。
◎ 地元産の美味しいお米や、野菜、果物等の食材を多く使った、新鮮で温かいお食事を召し上がって頂ける。
◎ 村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。
◎ 村の川や道路、町内会の清掃に参加したり、地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。
◎ 火災訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

美しい丘陵が周囲を囲む赤井川村の小高い丘に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。周囲は自然が豊かで、花や木々の色彩豊かな景色が楽しめる環境である。建物内は明るく清潔で、窓が大きく開放感があり、落ち着いた雰囲気や調度品や装飾品などが置かれている。2号館と合わせ、村内で唯一のグループホームとして、役場との連携や情報交換が密に行われている。感染症流行前は地域との交流も活発に行われていた。感染症流行下でも、地域のメンバーが揃った運営推進会議を2か月ごとに開催し、サービスの向上に役立っている。また、定期的に職員間の会議や研修が開催され、意見交換や情報共有が行われている。ケアマネジメントの面では、フェイスシート、アセスメントシート、介護計画、モニタリングシートなどが分かりやすく整備されている。医療支援の面では、個々のかかりつけ医に通院を支援し、受診内容の記録と共有が適切に行われている。食事の面では、地元で採れた季節の野菜を使い、豊富な献立の食事が提供されている。外出行事の実施が難しい中、散歩やドライブ、花見や果物狩りなど、できる範囲で行っている。豊かな環境ときめ細かな支援のもと、いきいきと生活できるグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と照らし合わせ、職員それぞれが出し合い、理念を作り上げた。研修時やカンファレンス時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。	理念と介護スタッフの理念があり、介護スタッフの理念の中に「地域に根ざしたホームを目指す」という文言を含めている。理念を事務所、リビング、休憩室に掲示し、毎月の研修で理念と介護スタッフの理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の道路の清掃、村内の文化祭にも作品を出品し、交流を深めている。	感染症流行前は、地域のお祭りや交流会に利用者に参加していた。現在は地域の道路清掃を手伝ったり、文化祭に参加している。感染症収束後は以前のように活発な地域交流を行いたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議等に参加して、認知症についての理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前に日程、テーマ等、質問等の窓口もお知らせし、議事録を送付している。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会役員、家族の参加を得て、防災や感染症、認知症の理解、救急措置などテーマも設定し意見交換している。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出向いた際には、担当者に、挨拶に伺い、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、介護事業の向上につながる様に努めている。	運営推進会議に役場や消防署の参加を得て、情報提供を受けている。感染症流行前は地域ケア会議があり参加していたため、各所との連携が取りやすい。グループホームを運営する村唯一の法人であり連携は密である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、委員会を設け、研修時には周知や、説明、ケアについて常に問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。そのために起こりうる事故等について家族に説明している。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し、3か月ごとに委員会や研修を行っている。玄関を施錠しているが、利用者でも簡単に内側から開けられる鍵で、閉塞感を感じさせないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようにしている。家族の虐待にも注意している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では、事例はないが、今後、当施設でも必要になってくることと思うので、研修に参加し活用できるよう取り組んでいきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。	最近はオンライン面会、通院の同行、介護計画の説明の際に家族の意見を聞き、意見を連絡帳に記載して職員間で共有している。3か月ごとの「あまらんす便り」に利用者ごとの写真のページも添えて家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。	月1回のミーティングやケアカンファレンスの際に職員が活発に意見交換している。職員は行事や身体拘束防止、安全対策、健康管理、厨房などの委員会や係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。段階に応じた育成プログラムに沿って進めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、又研修会に参加します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも、電話や訪問による相談を受け付け対応している。また、管理者が、留守の場合スタッフが対応し管理者に報告、管理者が家族の相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの出来る事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係をはあくし、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られている利用者が多いため、通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通ったりするようにしている。	感染症の流行により知人や友人の来訪は難しくなっているが、利用者と友人の手紙や電話のやり取りを支援している。通院の帰りに見慣れた風景を見たり、自分の習字の作品を文化祭に出して見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、これまでの関係性を大切にし、必要に応じて支援出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺っている。また必要に応じて、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。	1割ほどの利用者は思いや意向を表出でき、難しい利用者の場合も問いかげの反応や家族からの情報などから把握している。フェイスシート、アセスメントシートを定期更新し、生活歴も記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に面談し、生活歴をはあくし、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。	介護計画に関するモニタリングを毎月行い、6か月ごと及び変化がある場合に計画を更新している。計画目標を意識し日々の支援経過表を作成しているが、目標項目とより関連づけた支援内容の記載方法を検討中である。	目標項目とその日の支援内容の関連づけを明確にするため、例えば支援経過表の項目欄空白に関連する目標番号をあらかじめ記載し、関連する支援を行った際に目標番号に印をつけるなどの検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社で温泉施設を運営管理しており、ご家族、利用者、スタッフとの交流会に貸し切り、親交を深めました。新型コロナウイルス感染症など落ち着いたら再会します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出来るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。	利用者はそれぞれのかかりつけ医に通院しており、主に事業所で通院を支援している。受診内容を利用者ごとの受診記録と連絡帳に記載し職員間で共有している。	

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、家族からの情報収集に努め、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時には日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。終末期が近づいた場合は、どうするかをターミナルについての方向性について、何度も確認している。	利用開始時に、医療連携に関する指針、看取りの体制と実施方針などの書類を説明し、同意を得ている。事業所内で医療行為が必要な場合の対応が難しい旨を説明し、重度化した場合はスムーズに医療機関に移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、研修し実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、施設間や行政との協力関係につとめ、合同の避難訓練を行ない、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。	年に2回以上、消防署や地域の協力を得て避難訓練を実施している。職員の救急救命訓練を行い、災害時の備品も準備している。地震を想定した避難訓練の際は、対応のあり方について細かく確認している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。	研修で接遇などを学び、名前は「さん」づけで呼びかけ丁寧に対応している。言葉遣いや対応で気になる時は職員間で注意している。個人情報では、ファイルや記録など適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間において再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、化粧を希望される方には、お手伝いしている。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲で希望の食事を作り召し上がって頂いている。行事食の時など、出来る範囲で参加して頂いている。テーブル拭き等無理のない程度に行っている。	地で採れた米や野菜をもとに、種類を多く取り入れて栄養バランスの良い食事を提供している。季節の行事食では赤飯やおはぎなどを作っている。職員1名は検食し、汁物は同じものを摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け、利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシも使用し口臭対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。	全員の排泄記録に沿って日中はトイレに誘導している。トイレ内は便器回りの手すりなどの設置で安全にし、2人介助で行うこともある。夜間は状態をみてベッド上で交換する利用者もいる。排泄の声かけは耳元で確認し羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	午後の時間帯を主に、1人週2回の入浴を支援している。同性介助の意向に沿い、入浴を嫌がる場合も声かけを工夫して誘い、また職員2人介助など個々の事情に合わせて対応している。入浴中は湯船に浸かりながら職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休薬になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLが重度化してきているため日常の関わりの中で、利用者の役割、嗜好品や楽しみ事を感じ取り気分転換等の支援をし、ADLを少しでも維持出来るよう支援している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りおこなっている。利用者の希望があり、スタッフが支援できない場合は、家族に相談し、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。また、地域の方からも情報を頂き、桜の花の満開期や、ひまわりの群生期にドライブ等外出の楽しみを多くしている。	事業所前を散歩したり、庭のブルーベリーの収穫を楽しみながら外気に触れている。感染防止を徹底し、ドライブで花見、ひまわり・コスモス畑の見学、さくらんぼ狩りなど可能な限り出かけている。冬季も受診時に車窓から景色を眺めたり、事業所前に作った雪明りを見て季節を感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、調度良い広さであり、季節感や生活感を大切に、壁掛けや、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていたいた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用スペースは清掃が行き届いていて清潔である。居間の広い窓からは住宅や遠い山々の景色まで見渡せて開放感もある。各人のコーヒーカップを入れた食器棚が配置してあり家庭的で落ち着いた雰囲気になっている。文化祭に出展した作品や時節ごとに装飾品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いなれた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。	備え付けのクローゼットに物が整頓されており、動線に配慮している。馴染みの家具、小物類、テレビ、ラジオなどが持ち込まれている。壁には職員からの誕生日祝いのメッセージカードが飾ってあり温かみを添えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札には利用者の写真を入れ、自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす2F空		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	令和3年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎ 日本で一番美しい村の一つである赤井川村で、四季折々の自然風景を眺め、心穏やかに過ごして頂ける。</p> <p>◎ リビングからの眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。</p> <p>◎ お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。</p> <p>◎ 地元産の美味しいお米や、野菜、果物等の食材を多く使った、新鮮で温かいお食事を召し上がって頂ける。</p> <p>◎ 村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。</p> <p>◎ 村の川や道路、町内会の清掃に参加したり、地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。</p> <p>◎ 火災訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0192500015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0192500015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年9月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と照らし合わせ、職員それぞれが出し合い、理念を作り上げた。研修時やカンファレンス時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の道路の清掃、村内の文化祭にも作品を出品し、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議等に参加して、認知症についての理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前に日程、テーマ等、質問等の窓口もお知らせし、議事録を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出向いた際には、担当者に、挨拶に伺い、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、介護事業の向上につながる様に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、委員会を設け、研修時には周知や、説明、ケアについて常に問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。そのために起こりうる事故等について家族に説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようにしている。家族の虐待にも注意している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では、事例はないが、今後、当施設でも必要になってくることと思うので、研修に参加し活用できるよう取り組んでいきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。段階に応じた育成プログラムに沿って進めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、又研修会に参加します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも、電話や訪問による相談を受け付け対応している。また、管理者が、留守の場合スタッフが対応し管理者に報告、管理者が家族の相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの出来る事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係をはあくし、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られている利用者が多いため、通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通ったりするようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、これまでの関係性を大切に、必要に応じて支援出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺っている。また必要に応じて、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に面談し、生活歴をはあくし、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気付き等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社で温泉施設を運営管理しており、ご家族、利用者、スタッフとの交流会に貸し切り、親交を深めました。新型コロナウイルス感染症など落ち着いたら再会します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出来るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、家族からの情報収集に努め、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時には日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。終末期が近づいた場合は、どうするかをターミナルについての方向性について、何度も確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、研修し実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、施設間や行政との協力関係につとめ、合同の避難訓練を行ない、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間において再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、化粧を希望される方には、お手伝いしている。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲で希望の食事を作り召し上がって頂いている。行事食の時など、出来る範囲で参加して頂いている。テーブル拭き等無理のない程度に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け、利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシも使用し口臭対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休薬になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLが重度化してきているため日常の関わりの中で、利用者の役割、嗜好品や楽しみ事を感じ取り気分転換等の支援をし、ADLを少しでも維持出来るよう支援している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りおこなっている。利用者の希望があり、スタッフが支援できない場合は、家族に相談し、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。また、地域の方からも情報を頂き、桜の花の満開期や、ひまわりの群生期にドライブ等外出の楽しみを多くしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、調度良い広さであり、季節感や生活感を大切に、壁掛けや、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていたいた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いなれた物を持って来て頂くようお伝えし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札には利用者の写真を入れ、自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームあまらんす

作成日：令和 3年 10月 22日

市町村受理日：令和 3年 10月 25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の目標項目とより関連つけた支援内容の記載方法。	介護計画の目標項目との関連付けを明確にするよう努力します。	介護計画の目標番号と介護日誌の記載内容との連動、関連付けを明確にするため、介護日誌の支援経過表の項目欄余白に介護計画の目標番号を記載し、関連する支援を行った際に、目標番号に○をつけます。	1カ月
2	7	虐待防止について、以前から虐待防止対策・身体拘束廃止委員会を立ち上げており、3か月毎に会議を行い、研修をしていますが、指針については未整備です。	虐待防止のための指針について、身体的拘束等適正化のための指針等を参考にし、理解を深め、2年後の策定を目指します。	厚生労働省等の指針や身体的拘束等適正化のための指針を参考にし、策定に取り組みます。	2年間
3	35	役場、消防、運営推進会議の協力を仰ぎ、自然災害時の業務継続計画(BCP)策定については未整備です。	自然災害時の業務継続計画(BCP)について、理解を深め、2年後の策定を目指します。	自然災害時の業務継続計画(BCP)について、役場や消防などの関係機関、運営推進会議の協力を頂き、理解を深め、策定に取り組めます。	2年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。